

国語科 学習指導案			
単元名		文章を読み自身と照らし合わせる	
単元の目標 (単元で育成する 資質・能力)		<p>〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ・エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 <p>〔思考力、表現力、判断力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A話すこと・聞くことア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。 ・C読むことイ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。 	
具体的な評価規準			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙を豊かにし、使い方を理解している。※(1)ウエ		筆者の体験と、体験から感じたことを読み取り、自分自身の岐路と選択について考えをまとめ、伝えようとしている。※Aア、Cイ	意欲的に本文の内容を理解しようとしている。 本文の内容と自身を照らし合わせ、積極的に表現しようとしている。
単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1 2	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の正しい読みと意味を理解している。(知) ・自ら語句を検索している(主) ・筆者にとっての岐路がアメリカの旅であることを理解している。(思) ・班で協力しながら筆者の旅路をワークシートに書き込んでいる。(主) <p>【評価方法】 ワークシートの確認</p>	<p>①語句の読みと意味を調べ、ワークシートに書き込む。</p> <p>②筆者の旅路と体験から感じたことをワークシートに書き込む。(班活動)</p>
	3 4	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準を理解し、趣旨に沿った資料を作成している。(思) ・自身のこれまでを振り返り、過去の岐路と今の自身のつながりを見つめている。(主) <p>【評価方法】 作成資料の確認</p>	<p>③プレゼンテーション資料を作る。</p> <p>a教師の模範発表例を見る。</p> <p>b自分にとっての選択と岐路について考え、資料にまとめる。</p> <p>④発表練習をして、自身の発表内容を吟味する。</p>
三	5 6	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく、趣旨に沿った発表ができています。(思)(主) <p>【評価方法】 発表、相互評価フォーム</p>	<p>⑤発表と相互評価をする。(本時)</p>

学習指導案

令和4年9月16日(金)

1. 学年 学級 単位数	普通科IIHR 25名 (少人数クラス) 履修単位数2単位 (現代の国語)	教室 IIHR 指導者 柚木崎あす美
2. 単元	文章を読み自身と照らし合わせる	
3. 使用 教材	新編 現代の国語 (第一学習社) より星野道夫「十六歳のとき」	
4. 評価の 観点と 規準	イ 思考・判断・ 表現	自分自身の岐路と選択について考えをまとめ、伝えようとしている。※Aア
	ウ 主体的に学習に 取り組む態度	本文の内容と自身を照らし合わせ、聞き手に伝わりやすく表現しようとしている。
5. 本時の 目標	伝わりやすさや、発表の趣旨に留意して発表と評価をする。	

6. 指導と評価の観点 ア 知識・技能 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に取り組む態度

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の 観点
導入 10分	・挨拶、号令 ・本時の流れの確認 ・評価規準の確認、 評価の入力の仕方	・相互評価フォームの記入方法を確認しながら、どのような点に注意して発表をすればいいか理解する。	・評価の観点を意識させる。 ・感想の記入を積極的におこなうよう指導する。	イ
展開 30分	・発表と評価	・発表 ・相互評価フォームの入力	・指導者からは論旨や聞き取りやすさ、表現に着目して生徒に感想を述べる。	イ ウ
まとめ 5分	・本時の振り返りと 次回の見通し	・本時分の相互評価フォームの入力を終わらせる。	・次回の発表者へのアドバイスとなるように本時の総括をおこなう。	イ

国語科 学習指導案			
単元名		言語の特徴を理解する	
単元の目標 (単元で育成する 資質・能力)		<p>[知識及び技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。 ・ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ・エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 <p>[思考力、表現力、判断力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B書くことウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ・C読むことイ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。 	
具体的な評価規準			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・言語一般とオノマトペの特徴をそれぞれ理解している。 (1)ア ・本文中の語句の意味を理解し、漢字の読み書きができています。(1)ウエ 		<ul style="list-style-type: none"> ・音声と意味との関係から、言語一般およびオノマトペの機能的特徴を理解している。 C(1)イ ・オノマトペにおける音声と意味の関係をふまえ、オノマトペが表現する状況や様態を表現している。 B(1)ウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音としての言葉への興味を広げようとしている。 ・積極的にオノマトペを比較し、筆者の主張を検証して報告しようとしている。
単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1	【評価規準】	①単元の目標をおさえる。(主) ②本文中の語句を調べる。(知) ③第一、二段落を読む。(思) ④クイズに答え、言語記号の恣意性を確認する。(思)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を理解している。(主) ・語句の正しい読みと意味を理解している。(知) ・「言語記号の恣意性」を理解している。(思) 【評価方法】 ・ワークシートの確認	
二	3 4 (本時) 5	【評価規準】 <ul style="list-style-type: none"> ・オノマトペにおける音声と意味の関係を理解している。(知) ・班で話し合い、本文の内容を検証している。(知) ・班で積極的に意見を出し、本文の内容を検証しようとしている。 ・単元の学習を通して、言語に対する疑問や気づきを抱いている。(主) 【評価方法】 ・ワークシートの確認 ・班の意見の提出	⑤クイズに答え、言語記号の恣意性の例外があることに気づく。(思) ⑥第三～五段落を読む。(思) ⑦班ごとに割り当てられたオノマトペの語感や使用例を話し合う。(思)(主) ⑧各班の意見を集約した結果から、本文の内容を検証する。(思)(主) ⑨単元を通して抱いた言語に対する疑問や気づきを書く。(主)

学習指導案

令和4年11月7日(月)

1. 学年 学級 単位数	普通科11,12HR 24名(少人数クラス) 履修単位数2単位(現代の国語)	教室 11HR 指導者 柚木崎あす美
2. 単元	言語の特徴を理解する	
3. 使用 教材	新編 現代の国語(第一学習社)より清水由美「言葉の海のオノマトペ」	
4. 評価の 観点と 規準	イ 思考・判断・ 表現	音声と意味との関係から、言語一般およびオノマトペの機能的特徴を理解している。※C(1)イ
	ウ 主体的に学習に 取り組む態度	積極的にオノマトペを比較し、筆者の主張を検証して報告しようとしている。
5. 本時の 目標	本文中に述べられていたオノマトペの特徴について班で話し合い検証する。	

6. 指導と評価の観点 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に取り組む態度

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の 観点
導入 10分	・挨拶、号令 ・前回までの内容の確認	・ワークシートを見ながら前回までの内容を復習する。	・言語一般とオノマトペの特徴の違いを意識させる。	イ
展開 ① 10分	・第五段落 ・本文のまとめ	・本文を読み、オノマトペにも恣意的な部分があることを理解する。 ・本文全体を通して内容を整理する。	・本文中の具体例を参考に生徒にイメージさせる。	イ
展開 ② 20分	・本文の内容の検証(評価問題)	・目的と例題を示し、班活動の取り組み方を理解する。 ・活動1 班ごとに割り当てられたオノマトペについて、語感や使用例を考える。 ・活動2 他のオノマトペと比較し、共通点や相違点を見つける。	・本文の内容を受け、オノマトペにおいては音質や長さが意味と関係することが本当なのか検証することを伝える。 ・類似のオノマトペ間に共通点や相違点があることから何が言えるのかを考えさせる。	イ ウ
まとめ 5分	・班の意見の提出	・スプレッドシートに班の意見を入力する。	・次回の授業で各班の意見を集約したものから音質、長さや意味の関係を確かめることを伝える。	